

平成29年度

「中小企業の診断及び助言に関する実務の事例Ⅳ」の出題の趣旨

第1問（配点25点）

（設問1）

財務諸表の数値に基づいて、企業間比較においてD社の財務状態を適切に評価するために必要な財務指標の値を求める能力を問う問題である。

（設問2）

適切な財務比率に基づいて、同業他社と比較した場合のD社の財務的な課題及び強みに関して評価する能力を問う問題である。

第2問（配点18点）

（設問1）

一定の条件の下で予測損益計算書を作成することによって、利益計画に関する診断及び助言の基礎となる数値を計算する能力を問う問題である。

（設問2）

新規事業の立ち上げに関する財務的な影響について予測資料を解釈し、それに基づいて新規事業に関する予測損益を計算する能力を問う問題である。

（設問3）

新規事業の稼働水準の変化や売電単価の変化による損益への影響を分析することによって、新規事業のリスクを検討するための感度分析を行う能力を問う問題である。

第3問（配点29点）

（設問1）

機械設備の更新によって生じる将来の差額キャッシュフローを予測することによって、設備投資決定に必要な財務数値を計算する能力を問う問題である。

（設問2）

投資案の評価目的に適合した評価指標を選択し、これを計算したうえで、投資案の採否に関して適切な判断をする能力を問う問題である。

第4問（配点28点）

（設問1）

連結財務諸表から親会社と子会社のそれぞれの単体における損益状況を理解する能力を問う問題である。

（設問2）

関連会社（持分法適用）が子会社（全部連結適用）となることによる連結財務諸表への影響を推定する能力を問う問題である。

（設問3）

関連会社を子会社化することについて助言を求められた場合に指摘すべき事項についての理解を問う問題である。

以上